

シリーズ『大学受験情報』第2回

志望学部を選ぶ

大学・学部をどういう要因で決めたか

【志望大学と受験大学】

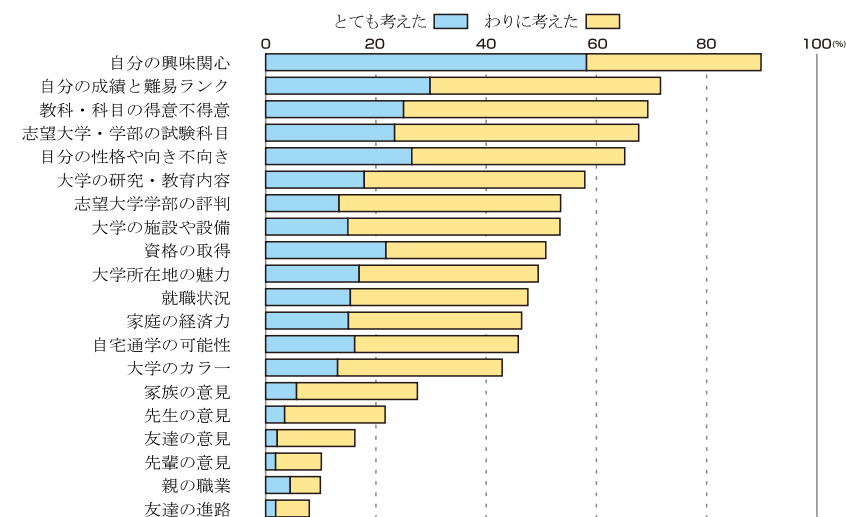
志望大学と受験大学は必ずしもまったく同じとは限りません。「入学したい」と思う大学が志望大学だとして、それ以外に「入学してもいい」という大学も受験することになるのがふつうです。もちろんなかには「〇〇大一直線」とばかりに、本命の志望校しか受けないという受験生もいますが、これはやはり少数派です。

【志望学部を選ぶ】

アンケート調査によると、高校1年生のうちに志望学部を決めた受験生が29%、2年生が終わるまで決めたという人が63%です。志望した学部系統別にみると、国公立大志望者や理科系志望者の70%程度が3年生になるまでに決めているのに対し、私立大の文科系志望者はほぼ半数が3年生になってから決めています。浪人受験生の調査では、高校を卒業してから決めたという人が21%もいます。行きたい学部や勉強したい分野がなかなか決まらないというのでは、本格的な受験準備もなかなか始められないことになりがちです。「早く決めなさい」とせかせば決められるというものでもありませんが、必要な情報を整理し、適当な時期には「決断」してしまわなければなりません。本来は勉強したい分野があって、それを勉強するために大学へ行こうと思うものですが、まず大学に行きたいという思いが先にあって、その後でどの学部に行こうかと選びだすというパターンがかなり多いのも現実です。受験生たちは志望学部を決める際に、どういうことを判断の材料にしているのでしょうか。先のアンケート調査によると「自分の興味・関心」と「教科・科目の得意・不得意」を考慮して決めるという傾向が強いようです(図1)。「就職」ということにも関心を持っていますが、「どこの学部が就職に有利か」というとらえかたが多いようです。

どういう職業につきたいかということがあって、そのために必要な学部を選ぶというのが順当だと思われませんが、職業についてのリアルな認識をもっている受験生はそれほど多くはありません。現在の日本の大学にはどのような学部があるのかを(表2)に示してみました。以前にはなかった「国際〇〇学部」「人間〇〇学部」とか「情報〇〇学部」「環境〇〇学部」などと文系と理系にまたがる学際系学部が増えてきて、保護者にとって、なかなかわかりにくくなってきました。「こういう学部に入ると就職はどうなるのか」というご質問を受けることが多いのですが、就職先は多様です。新しい学部は、企業や社会からそういう学部系統への需要がでてきたから新設されたと考えられます。志望生本人が興味を持ち、熱心に勉強してみようという意欲があるのなら道はひらけているとみてよいでしょう。(表3)は、学部の内容について表したものです。ただしこれはあくまで「傾向」を表しているだけで、学部と職業が直結しているのは医学部や看護学部など医療系にほぼ限られています。

(図1) 大学・学部をどういう要因で決めたか



それ以外の学部系統では、卒業生の職種はそれほど決まったものにはなっていません。日本では「就職」というより「就社」という傾向が強く、企業側も採用にあたって、特定の職種を決めて採ることはあまりありません。たとえ職種が決まっていたとしても、人事異動が結構多く、会社にやれといわれればどんな職種でもやる、というのが日本式ということになります。これからは、日本でも「専門性」が求められる時代になっていくと予想されていますが、ここでいわれている「専門性」は、仕事に就いてから身につけられる専門性や、大学院レベルでの専門性をさしているのので、大学の学部段階との関連は薄いとみられます。実は学部選択というのは難しいもので、受験生も保護者も迷いだすとなかなか結論が出せなくなったりします。そういう時には、どの学部の勉強内容に興味を持てそうかということを中心に考えるのが適切でしょう。やはり「興味・関心」というのが、学部選択の最大の基準なのです。将来のことや就職のことは、その関心のある勉強をしながら絞りこんでいくというのも悪くはありません。

(表2) 学部系統の分類

文理別	学部系統	該当学部名
文科系	法学系	法学部、法政策学部、経営法学部、〈東京大学Ⅰ〉
	人文社会系	文学部、文教育学部、人文社会科学部、社会学部、社会福祉学部、福祉社会学部、人間福祉学部、行政社会学部、文芸学部、神学部、仏教学部、現代文化学部、人文学部、日本文化学部、社会科学部、産業社会学部、社会情報学部、外国語学部、国際関係学部、国際言語文化学部、国際言語学部、比較文化学部、国際学部、国際文化学部、国際コミュニケーション学部、人文・社会学部、人文社会学部、現代社会学部、コミュニケーション学部、文化学部、国際交流学部、現代中国学部、国際文化交流学部、観光学部、コミュニティ福祉学部、国際情報学部、国際協力学部、〈東京大学Ⅱ〉
	経済学系	経済学部、経営学部、商学部、商経学部、経営情報学部、情報学部、経済情報学部、経営経済学部、国際商学部、国際経済学部、国際経営学部、流通科学部、流通学部、流通情報学部、経営科学部、経済科学部、〈東京大学Ⅱ〉
	文科総合系	法学部、法経学部、人間科学部、政経学部、政治経済学部、国際政治経済学部、人間学部、人間関係学部、総合政策学部、人間社会学部、情報文化学部、不動産学部、文化情報学部、政策科学部、地域政策学部、経営政策学部、人間文化学部、人間環境学部、地域科学部、国際地域学部、事業構想学部、情報社会政策学部、コミュニティ政策学部
文理混合系	教員養成系	教育学部、体育学部、学校教育学部、スポーツ健康科学部、スポーツ科学部、〈筑波大学体育専門学群〉、子ども学部
	芸術系	美術学部、美術工芸学部、音楽学部、芸術学部、造形学部、造形芸術学部、デザイン学部、〈筑波大学芸術専門学群〉
	生活科学系	家政学部、生活科学部、栄養学部、食品栄養科学部、人間生活学部、生活環境学部、食文化学部
	文理総合系	教養学部、総合科学部、文学部、学芸学部、図書館情報学部、総合人間学部、環境情報学部、総合管理学部、都市情報学部、情報社会科学部、総合情報学部、環境システム学部、環境人間学部、地球環境科学部、教育人間科学部、教育文化学部、文化教育学部
理科系	理学系	理学部、繊維学部、情報科学部、生物理工学部、生命科学部、〈東京工業大学第1類・第7類(生命理工学部)〉
	農学系	農学部、園芸学部、畜産学部、水産学部、生物生産学部、生物資源科学部、獣医学部、畜産学部、獣医学部、酪農学部、生物産業学部、応用生物科学部、国際食料情報学部、農学生命科学部、バイオサイエンス学部、〈東京大学Ⅱ〉
	工学系	工学部、基礎工学部、工芸学部、情報工学部、電気通信学部、芸術工学部、商船学部、生産工学部、医用工学部、システム工学部、開発工学部、デザイン工学部、コンピュータ理工学部、産業科学技術学部、ソフトウェア情報学部、工学資源学部、〈東京工業大学第2〜第6類〉
	薬学系	薬学部
	医・歯学系	医学部、歯学部、〈筑波大学医学群〉、〈東京大学Ⅲ〉
	医療看護系	看護学部、保健学部、衛生学部、環境保健学部、鍼灸学部、保健衛生学部、医療福祉学部、医療技術学部、看護福祉学部、保健医療学部、保健福祉学部、医療衛生学部、保健科学部、健康科学部、産業保健学部
理科総合系	理工学部、総合理工学部、海洋学部、環境学部、環境理工学部、環境科学部、融合理工学部、〈東京大学Ⅰ〉	

(表3) 主な学部の内容と就職状況

学部	内容	就職状況
文学部	人生について考え、人間について深く洞察する学部。文学のほか史学、地理学、哲学、心理学などがある。文化人類学や人間科学などの社会学的な学科がある大学もある。	公務員や教員、マスコミ関係などに強く、各種サービス業、保険業、金融業、コンピュータ関連など幅広く進出している。
人文学部	学際的、総合的に人間と社会・文化のあり方を研究する幅広い領域をもつ学部。日本や東洋、欧米の文化や言語、地域科学、行動科学などを学ぶ。新しい領域も多い。	研究員やマスコミ関連の希望が強いが、公務員や教員のほかサービス業、金融業、電機、運輸など一般企業に就職する卒業生も多い。
社会学部	社会や人間関係を研究する学部。社会学科やコミュニケーション学科、福祉関連の学科、観光学科、人類学科などがある。大学によって内容に特徴がある中で希望のコースがあることを確認した方がよい。	進路は多岐にわたっているが、人を対象としたサービス業に向いており、福祉関係や地域行政、マスコミ関係、旅行業、観光業などに多く就職している。
国際関係学部	国際社会に対応できる人材を養成する学部。日本企業の海外進出や外国企業の日本進出が増え、グローバル化の進展に伴い重要性を増している。国際関係学と国際文化学に大別されるが、多様な専門科目がある。語学力は必須条件。	海外での活躍の場が多い商社や製造業、銀行などへの希望が多い。外交官や通訳、フライトアテンダントなどの人気も高く、官公庁への進出も見られる。
法学部	法学系と政治学系に大別される。法律は企業でも個人でも関係が深く、経済や社会が複雑化し、国際的な関係が強まるにつれて法律の重要性が増している。憲法や労働法、商法、民法、刑法などの法を通して正義や公共の福祉、人権などをどう守るかを学ぶ。	弁護士、裁判官などになるために司法試験合格をめざす人が多いが、ほとんどは一般企業に就職している。裁判所事務官や入国管理官、弁理士、税理士など法律知識を生かした公務員になる人もあり、上級公務員にも強みを発揮している。
経済学部	マルクス経済学と近代経済学の2系列があるが、最近では近代経済学が中心。理論的・数理的な思考力と為替相場や貿易摩擦が経済にどう影響するかなど現実的な判断力が要求される。経営学部や商学部は経済学部と比べ実務的な傾向がある。	多様な職種に進出しているが、商社や銀行、証券、保険などの業界に強い。また、流通、製造メーカー、卸売り、小売りなどには経済学の知識が不可欠。公務員志望者も多い。
理学部	数学、物理学、化学、生物学、地学などの学科がある。自然現象について「なぜ」と問いつける疑問から発して解明していく真理追求の学問を学ぶ。他の理系と比べると基礎的、理論的。学部設置は国公立大学に多い。	大学院進学や民間の研究所への就職が多い。その他の就職では、化学系はバイオ関連、応用数学・情報科学系はコンピュータ関連など専門を生かすケースがみられ、公務員への希望も多い。
工学部	機械、電気・電子、応用化学、土木・建築、経営工学など広い分野を持つ。基礎研究の理学部に対し、工学部は応用的・実践的。環境工学や機械知能システムなど新分野の学科も増加。	技術立国・日本を支え、メーカーの技術職や研究所への就職が主力。技術の高度化につれて大学院進学も増えている。社会の情報化が進み、就職も多様になっている。
農学部	人類の生命維持の基本である食糧生産に関わる学部。農業、農芸化学、農業工学、農業経済、水産、畜産、獣医、林産など幅広い。改組により生物生産学部、生物資源学部などの名称に変更した大学もある。獣医学は6年制。	農林水産関係は官公庁で農政につく者も多い。公務員、農協関連、水産・食品会社への就職、大学院進学などがある。バイオテクノロジー関連などで民間の研究所へ進む道もある。
医学部	医師になるための6年制の学部。解剖学や病理学などの基礎医学および外科学や麻酔学などの臨床医学を学び、最終段階で内科・外科などの専門に分かれる。人間を愛する広い心と倫理観が必要。	大部分が医師国家試験を受験し、合格すると2年以上の臨床研修を受ける。この間に専門分野を決定。医師には臨床医と基礎医学を研究する医師の2種類がある。
教育学部(教員養成系)	教員養成を目的とした学部と教員免許取得を目的としない“ゼロ免課程”がある。教員養成には小学校、中学校などの課程があり、さらに英語や国語、数学、理科などの専攻に分かれる。ゼロ免課程には国際文化や生涯教育、カウンセリング、情報科学など幅広いコースがある。	卒業生の多くが教員採用試験を受験するが、予備校・塾講師や教材関連会社、一般企業への就職も多い。ゼロ免課程の卒業生は大学院進学のほか、幅広い知識・柔軟な思考力を生かしている様々な業種の企業に就職している。
生活科学部	生活科学を体系的に学ぶところで、家政学、食物学、住居学、児童学などの学科がある。生活科学部と名称変更した大学もあり、良妻賢母型のところは少なくなった。自然科学と人文・社会科学を結合した学際的な学問分野も増えてきた。	それぞれの学科の専門を生かして栄養士や保育士、幼稚園教諭などになるのがスタンダードな道。新しいライフスタイルを提唱する商品企画やサービス部門に就職する例も増えている。
総合科学部	国立の広島大と徳島大の2校に設置されている学部。大学によって生体行動科学や物質生命科学、数理情報科学、地域文化、人間関係、国際関係などのコースがあり、文理にまたがる授業が比較的自由に選択できる。慶応義塾大の環境情報学部や京都大の総合人間学部もこの系列に入る。	大学院進学のほか、製造業、公務員、サービス業などの産業に就職している。まだ新しい学部で産業界に先輩が少ないが、総合的な視点と幅広い知識を身につけた卒業生がどう社会で活躍するかが注目される。